

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）
分担研究報告書

稀少てんかんに関する調査研究

研究分担者 川合謙介 自治医科大学脳神経外科 教授

研究要旨

限局性皮質異形成に伴う難治性てんかんについて、外科的治療に注目して新知見を集積した。また、手術例に関する疫学的データを入手すべく日本脳神経外科学会と連携を図った。

A．研究目的

本分担研究は、限局性皮質異形成に伴う難治性てんかんについて全国規模で症例を集積し、追跡調査を行って、病態、発達・併存障害、治療反応、社会生活状態、死亡に関する疫学的根拠を得ることを目的とする。

B．研究方法

- 1) 国際基準の改訂や新知見の報告等、診断基準や診療ガイドラインを改訂する。
- 2) レジストリ登録を推進する。
- 3) 日本脳神経外科学会、日本てんかん外科学会と連携して外科治療を行われた症例の解析を行う。

C．研究結果

- 1) 診断治療が困難とされる頭頂葉内側病変（限局性異形成を含む）による難治性てんかんに対して離断手術が有効であることを示した（文献1）。
- 2) 切除手術が困難な難治性てんかんに対する新型迷走神経刺激療法の効果や本邦未導入のニューロモデュレーション治療の可能性を示した（文献3）。
- 3) 日本脳神経外科学会に対して、悉皆型症例登録JNDの二次利用について確認した。1年目の登録が終了し、これから検討項目を明かにする段階であり、限局性皮質異形成に関する

二次利用も検討対象となる旨の回答を得た。

D．考察

本レジストリ登録症例における限局性皮質異形成の臨床所見は、ほぼ前年度の文献的考察において得られたものと同等であった。手術例に関する日本脳神経外科学会データベースの二次利用については引き続き検討が必要である。

E．結論

限局性皮質異形成に伴う難治性てんかんについて、レジストリ登録を進めるとともに新知見を集積し、手術例に関する疫学的データについて日本脳神経外科学会と連携を図った。

F．健康危険情報

なし。

G．研究発表

1. 論文発表、著書

Matsuo T, Kawai K, Ibayashi K, et al. D isconnection surgery for intractable epilepsy with a structural abnormality in the medial posterior cortex. World Neurosurg 116:e577-e587, 2018
Ishishita Y, Kawai K (10人中6番目), et

al. Deviance detection is the dominant component of auditory contextual processing in the lateral superior temporal gyrus: A human ECoG study. Human Brain Mapp 128(4), Epub 2018/10/26, 2018
Ibayashi K, Kawai K (7人中6番目), et al. Decoding speech with integrate hybrid signals recorded from the human ventral motor cortex. Front Neurosci 12;221:2018

中嶋剛, 川合謙介. 小児てんかんに対する外科治療. 小児科臨床 71:1677-1683,2018
中嶋剛、川合謙介。難治てんかんの外科治療。小児科診療 81;55-59:2018

山本貴道, 川合謙介ほか:難治性てんかんに対する発作感知型デバイスによる新たな治療選択肢Aspire SR & RNS System. 脳神経外科46:247-262,2018

川合謙介。てんかん。一杉正仁、武原格編、臨床医のための疾病と自動車運転。三輪書店、東京：2018, 49-57

2. 学会発表

川合謙介. てんかん診療の医療体制.第77回日本脳神経外科学会総会.2018.10.10. 仙台

川合謙介. 植込型電気刺激装置によるてんかん治療の現状と今後の見込み. 第42回日本てんかん外科学会. 2019.1.24. 東京.

ほか

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

なし